

副専攻名 人体の仕組みと健康						
副専攻のCP(カリキュラム編成方針)						
保健学を学び健康を考える上で重要な基礎知識として6カテゴリーから構成している。人体の解剖学(カテゴリーⅠ)、機能(生理学、カテゴリーⅡ)を理解することから始めて、感染症(カテゴリーⅣ)とその防御に関連する仕組み(カテゴリーⅢ)を理解し、子供から老人に至るまでの疾病(カテゴリーⅤおよびⅥ)を学ぶことにより、自分自身の健康増進のために必要な知識を身に付け、日常生活に活かすことができるようになるように編成した。6カテゴリーから5科目以上を選択、各カテゴリーから1科目以上を取得すること。						
副専攻の学習成果						
1. 人体の構造や働きの基本知識を理解できる。 2. 基礎知識を元に、その破綻に基づく病気やその治療法を理解できる。 3. 病気の予防のみでなく健康の増進についても学び、日常生活に活かす方法を考えることができる。						
副専攻を構成する科目						
カテゴリー	科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	前期	後期
Ⅰ	45205	画像解剖学	1. X線撮影やCTなど各種医療画像の正常像を完全に理解し、そこに映し出されている解剖学的構造の名称を熟知し、異常構造も認識できる。	2		*
	(専攻による)	生体の構造 (同一名称科目が4科目ある)	(履修を希望する専攻によって異なるため、各専攻のカリキュラムマップを参照。)			
Ⅱ	(専攻による)	生体の機能 (同一名称科目が4科目ある)	(履修を希望する専攻によって異なるため、各専攻のカリキュラムマップを参照。)			
	45403	呼吸循環器病態学	1. 心機能の調節系と心不全の病態を理解できる。 2. 動脈硬化の成因と冠動脈疾患の病態を理解できる。 3. 心臓電気生理と不整脈の成因を理解できる。 4. 心疾患と治療の考え方を理解できる。 5. 呼吸機能および呼吸器疾患の病態を理解できる。	2		*
Ⅲ	45304	血液学	1. 赤血球の産生、形態、機能について理解できる。 2. ヘモグロビンの構造と機能について理解できる。 3. 白血球の分類と各血球の産生、形態、機能について理解できる。 4. 血小板の産生と機能について理解できる。 5. 造血因子について理解できる。 6. 貧血、造血器悪性腫瘍について理解できる。	2	*	
	45312	免疫学	1. 血清・免疫検査学を履修するにあたって、最低限の免疫学の基礎知識を修得できる。	2		*
Ⅳ	45305	微生物学総論	1. 各種微生物の生物学上の位置づけ、他の生物および環境との関わりを理解できる。 2. 細菌の基本構造と増殖について理解できる。 3. 病原細菌・感染症に関連した様々な事項(病原性、感染経路、免疫、化学療法、滅菌・消毒等)を理解できる。	2	*	
	23104	感染学	1. 微生物と他の生物および環境との関わりを説明できる。 2. 微生物の構造や代謝を知り、ヒトや動物と相似点・相違点を説明できる。 3. 感染症に関連した様々な事項(感染経路、免疫、化学療法、滅菌・消毒等)を説明できる。 4. 各種感染症およびその病原体の特徴を説明できる。 5. 感染予防のための看護について検討し、自己の考えを述べるができる。	1		*
Ⅴ	45106	成人疾病論	1. 各器官の解剖、生理機能を基礎として、各疾患の病態、診断、治療を内科的・外科的見地から理解できる。	2		*
	45107	小児母性疾病論	1. 小児・母性疾患の病態を理解し、看護に必要な医学知識を整理できる。 2. 授業の内容を理解し、卒業後も、保健指導や看護の在り方を、学生自身が主体的に考えるための資料にできる。	2		*
	45108	精神老年運動器疾病論	1. リハビリテーション疾病論;神経疾患の基礎知識を習得し、神経疾患により生じる機能障害、能力低下、社会的不利を理解できる。 2. 精神疾病論;精神科看護に必要な精神疾患に関する病態および精神科医療、精神障害者の人権と生活を支えるための必要な知識を理解・修得できる。 3. 成人・高齢者疾病論(内科系);各器官の解剖、生理機能を基礎として、各疾患の病態、診断、治療を内科的見地から理解できる。	2		*
Ⅵ	45316	病態生理学Ⅰ	1. 疾病の診断過程を理解できる。 2. 感染症について、微生物学で学んだ知識との連携で疾患を理解できる。 3. 自己免疫性疾患について理解できる。 4. 呼吸器疾患について理解できる。 5. 消化器疾患について理解できる。	3	*	
	45327	病態生理学Ⅱ	1. 臓器システムごとの疾患病態を理解できる。 2. 臨床検査成績の読解力(病態識別力)を養い、検査法を比較できる。	3		*